

### 第3回 サブオービタル飛行に関する官民協議会 議事要旨

1. 日時：令和3年9月1日（水） 16：00～17：30
2. 場所：オンライン会議
3. 議事
  - (1) 国内事業者の開発状況
  - (2) スペースポートに関する国内外の動向
  - (3) 将来課題検討WGの状況報告
  - (4) 革新的将来宇宙輸送ロードマップ検討会の検討状況
  - (5) その他
4. 出席者：別紙の通り
5. 議事概要
  - 冒頭、共同事務局を代表し、河西内閣府宇宙開発戦略推進事務局長及び平井国土交通省航空局安全部長から、挨拶があった。
  - 議事（1）に関して、資料1-1に基づき株式会社SPACE WALKERから、資料1-2に基づきPDエアロスペース株式会社から、各社における開発状況について説明がされた。
  - 議事（2）に関して、資料2に基づき一般社団法人Space Port Japanから、国内外におけるスペースポートの検討・開発状況について説明がされた。
  - 議事（3）に関して、資料3に基づき事務局から、令和3年5月に開催した将来課題検討WGの議事内容について説明がされた。
  - 議事（4）に関して、資料4-1及び資料4-2に基づき文部科学省より革新的将来宇宙輸送ロードマップ検討会の中間取りまとめの概要について説明がされた。中間取りまとめにおいて、2040年を目標に高頻度往還飛行

型宇宙輸送システムの開発を進めることされているが、事業者より、海外及び国内の事業者の開発動向を踏まえると、より早い年代の目標設定が必要ではないかという提議があった。また、令和3年7月に設立された一般社団法人宇宙旅客輸送推進協議会より、同協議会の紹介がされた。

- 議事（5）に関して、事務局より、今後の進め方として必要に応じ将来課題WGの場を活用して、環境整備の議論・検討を進めていくことが説明された。また、事業者より、サブオービタル機等の新しいモビリティに関する取組にあたっては、既存の枠組みに捉われることなく検討することの重要性が提議された。これに対して事務局より海外事例や国内事業者の実証実験の進捗等を踏まえ、将来課題検討WG等で官民が協議しながら検討を進める旨の発言があった。

以上